

2017（平成29）年度事業結果シート

(全)全体 (作)作業グループ (生)生活グループ

		計画内容															実施内容等		
	No	事業名	実施予定時期（月）												実施時期等	対象者及び内容等	達成度（%）	結果説明	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
人権に配慮した取り組み	1	意思決定支援の取り組み	→												通年	施設利用者へ適切なサービスを提供するために、本人の意思確認だけでなく家族へも情報提供を行う。	100	職員のアイデアを生かした活動の工程表や絵・写真を利用した説明版を作成し分かりやすい説明に心がけるようにした。	
	2	差別解消と合理的配慮の取り組み	→												通年	国が作成したガイドラインをテキストとして合理的配慮の理解を深める勉強会を実施する。	100	国のガイドラインの概要版を作成し職員の自己学習用として配布した。	
	3	虐待を未然防止する取り組み	→			→											新人職員4月 その他職員7月	虐待を予防するためには繰り返し職員へ理解を深める研修を行うとともに虐待マニュアル（言葉編）の作成する。	100
職員育成の取り組み	1	OJTによるスキルアップ（仕事をとおした研修）	→												通年	支援に必要なスキルを身につけるため日々の仕事を通じた研修を行う。	60	研修については、今年度から自己啓発等、職員自身による学びを中心に組み立てた。これは職員により勤務時間や勤務実態が異なり、全体研修が困難なことから職員自身のモチベーションを高め、福祉の基本である自己判断力を身につけるために取り組んでいるところである。 今年度については、障がい特性を生かした支援（合理的配慮）と虐待防止のハンドブックを材料として各人が取り組むことで自身の能力を伸ばすこととする。 結果については、個人差や業務多忙により十分できなかった面があったが、今後も継続する。	
	2	自己啓発によるスキルアップ	→												通年	福祉のエキスパートとして活躍するために自身によるトレーニング法を確立する。			
	3	職員育成のための仕組みづくりの検討		→												第1 四半期			仕事に対する職員のモチベーションを高めるための動機づけとなる仕組みを検討する。
	4	階層別研修の実施		→												上半期			職員の階層ごとの役割を明確にし責任の明確化と意識の向上に努める。
	1	防災計画の改定	→													4月	いつ起こるかかわからない自然災害に対し施設利用者の安全と被害を最小限にするための計画を策定する。	100	4月に新年度用防災計画を作成し職員及び利用者の家庭へ配布した。今後は具体的職員の役割等を確認する。

	No	事業名	実施予定時期（月）												実施時期等	対象者及び内容等	達成度（%）	結果説明	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
防災の項目	防災の取り組み	2	藤沢市災害協定の取り組み													通年	災害発生後、福祉避難所として施設を利用のための体制を整備する。	100	藤沢市と締結している災害協定に基づき施設の具体的受け入れについて、災害対応マニュアルを改定し整理した。
		3	災害時の職員配置と応援体制の整備													4月	災害発生時の安否確認や応援体制について防災計画の策定に合わせ確認する。	100	防災計画上は、人員を確保した計画となっているが、生活支援グループ全体では、休日夜間に災害が発生した場合の人員確保に課題が残る。
		4	災害物品の確保と点検													4月～5月	防災備蓄物品のリストに基づき点検をした結果、消費期限切れが近いものや灯油缶等買い替えの費用が多額になるものがあることなどから買い替えについては次年度に持ち越すこととした。	80	災害物品については、施設開所当初に購入した物が多く、使用期限終了となるものがある。特に灯油缶は3年程度となっているため次年度に交換する。
行事・日中活動の項目	共通の行事イベント	1	行事等に対するアンケートの実施（全）													4月に実施	施設が行う行事についてはできるだけ利用者の意見を尊重するため意識調査を行う。（アンケート方式）	100	6月初旬に実施した。内容はむぎばたけの運営や行事、防災、意思決定支援等についての調査とした。今後は、運営に生かせるものを精査し検討を進める。
		2	夏祭り・日帰り旅行等の実施（全）													アンケートを参考にバランスよく実施。（通年）	行事等は、準備等利用者参加型の検討を進める。また夏祭りはハートピア湘南と協同実施を検討する。	100	今年度初めてとなる夏まつりを9/9（土）に実施した。来場者からは評価を得ることができ、一定の成果があげられた。 また予定した日帰り旅行も滞りなく実施できた。 1グループ 11月15日（水）シーパラダイス 2グループ 11月17日（金）シーパラダイス 3グループ 11月27日（月）かまぼこの鈴廣

	No	事業名	実施予定時期（月）												実施時期等	対象者及び内容等	達成度（%）	結果説明	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
	3	花見・クリスマス等の季節行事等を実施（全）													〃	クリスマスや花見等季節に合わせた行事を予定する。	100	年中行事については、季節に合わせて実施をした。 ・クリスマス ・ハロウィーン ・カラオケ大会 ・ボウリング大会等を予定どおり実施した。	
行事・日中活動の項目	特徴的な日中活動	1	農作業（全）													天候や作物に合わせた活動（不定期）	農作物の育成と収穫する喜びを体験する活動として展開する。	60	現時点では、利用者主体の農作業は難しいため職員が準備し、収穫を中心に実施している。できれば作業として定着できればと考えている。収穫した作物は、家庭に配布したり給食使用した。
		2	活動の展示と公開（全）													9月・3月に展示公開	上半期・下半期の活動や創作した作品を展示し、家族へ公開する。	80	今年度は、家族との懇談会に合わせて実施した。開催期間10月28日の前後1週間実施したが予定の年2回開催はできなかった。
		3	楽器を利用した音楽活動（生）													月数回程度	（新）ハンドベルやタンバリン等を利用した音楽活動を試行的に実施する。	50	音楽（楽器の演奏）を通じて情操の取組を開始した。現在週1回、ハンドベルを使用し希望するグループで取り組んでいる。 参加者の音楽に対する興味の度合い等が異なるためまとまってできにくいですが、次年度についても引き続き取り組んでいく。
		4	日常必要となる行動の習得（生）													週1回程度	日常生活に必要な掃除や歯磨き、手洗い等を身につける時間を設け実践する。	50	日常生活の基本である手洗いを中心に取組を進めている。トイレの後や食事の前には、職員の声掛けで手洗いができる方も増えている。また部屋の鍵の開け閉め等引き続き継続する必要があることから達成度を50%とした。

	No	事業名	実施予定時期（月）											実施時期等	対象者及び内容等	達成度（%）	結果説明	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2					3
	5	自然を楽しむ機会の提供（生）												週1回程度	施設周辺には日大農場やバラ園、近隣公園等自然に恵まれた環境を生かした活動を展開する。	100	体力維持や健康づくり、気分転換を兼ねて施設の周辺や車で近場の散策を行っている。ドライブは利用者ニーズも高く、今後も増えそうな傾向にある。	
	6	作業活動（作）												毎日	働く喜びと少しでも高い工賃を得るために作業活動を行う。また新たな作業開拓と工賃の支給方法の検討を進める。	100	作業活動については、障がい特性に合わせた取り組みが十分でないなど課題はあるが、現状で大きな問題がないため継続する方向で考えている。	
その他の項目	その他事業	1	送迎サービスの充実												通年	利用者増に合わせ3コースから4コースに増便（柄沢方面）する。	100	利用者増に伴い送迎を希望する方も増えたことから4月から4コースで実施。1コース2名（添乗含む）体制となるため現状が最大となり職員体制が今後の課題となる。
		2	給食サービスのあり方検討												年内	制度改定に向け国の動向を注視し検討を進める。完全調理と利用者負担のあり方を検討する。	0	給食の廃止については国が3年間延長したことから代案を検討する必要がなくなったことから現状維持としたため達成度は0%とした。
		3	懇談会・試食会の実施														9月	施設利用者の家族を対象に日頃の活動の説明と合わせ昼食への理解を深める機会として実施する。